

トピックス

- 建築のお知らせとお願い
- 新任部長ごあいさつ
…… 姫野 第二放射線科部長・梅澤 産婦人科部長
- 当院のボランティア活動
…… ボランティアスタッフ 福井 敏子
- 国際救援活動（スマトラ沖地震）に参加して
…… 山崎 整形外科部長
- ニュース
 - ・ NICU開設
 - ・ 国内型緊急対応ユニット（dERU）導入

建築のお知らせとお願い

コーヒーショップはタリーズ・コーヒーに決定

現在、新しい外来棟の建築と救急救命棟の整備のための工事が行なわれています。

外来棟は、すでに鉄骨が立ち上がり、本格的な工事に入っています。完成・移転は、来年の3月の予定で、現在1番館にある外来（内科、小児科、精神科・心療内科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科）と2番館にある心臓血管外科と呼吸器外科が新棟に移転します。新棟では、エスカレーターが設けられ、また患者さんにご利用いただく情報コーナーやコーヒーショップ*が出来ます。

その後、現在の1番館外来の跡地を救急救命棟として整備します。これに伴い、一部増築も行なわれますので、その準備として旧看護婦寮の解体が終了しました。

工事期間中は、騒音、一部店舗の休止、駐車場の縮小など、いろいろご迷惑をお掛けしておりますが、ご理解くださいますようお願いいたします。



↑ 建築中の新外来棟（10月下旬）
→ 上から見た建築現場（10月下旬）

※コーヒーショップ

新外来棟に設けられるコーヒーショップには、タリーズ・コーヒー・ジャパンが選ばれました。おいしいコーヒーとともに、ご来院のみなさまがくつろげるような場所になって欲しいと思っています。みなさま是非ご利用ください。

タリーズ・コーヒーさんからひとこと

『皆様に愛されるお店を目指し、最高の笑顔と最高のお飲み物で皆様のお越しをお待ちしております。』



店舗完成予想図

新任部長ごあいさつ

第二放射線科部長
姫野 佳郎



近年、放射線業務は拡張の一途をたどっています。悪性腫瘍の増加に伴い放射線治療が行われることが多くなり、またCT・MRI・血管造影などの画像診断が急速に増加しています。このうち画像診断を主な業務とする第二放射線科部が新設され、姫野部長が就任しました。「なくてはならない放射線科」と認識していただけるよう努力します。

産婦人科部長
梅澤 聡



癌研病院で婦人科腫瘍の診療に携わってきましたが、本年3月当院に着任、7月に長阪前部長の後任として部長に就任しました。産婦人科の各専門領域（周産期、腫瘍、不妊症、腹腔鏡下手術など）について十分な機能を果たせる当院で、よりよい産婦人科医療を目指していききたいと思っています。

当院における ボランティア活動

ボランティアスタッフ
福井 敏子



当院ボランティアは、昭和58年に発足しました。当初は女性4名から始まり、現在は男性も含めて約60名の会員数になりました。

活動内容としては、

- ① 外来での活動：総合案内、内科、眼科、産婦人科、リハビリテーション科、処置センター等。
- ② 病棟での活動：入院患者さんの身の周りの世話（洗濯、買い物、散歩、入浴介助）、リハビリ移送、小児工作、移動図書等。
- ③ ボランティアルームでの活動：衛生材料作成、書類のセット組み、ゴム印押し。
- ④ 病院行事の手伝い：バザー、イベント、コンサート等の手伝い。

以上のように多岐に渡っています。患者さんが精神的な安らぎを得られるように、暖かな心遣いや目配りが大切だと考えています。患者さんの立場になり必要以上の親切は控えて、言葉遣いやタイミングに注意して手を差し伸べたり、声を掛けたりしています。時には反省することもあり難しさを感じることもあります。

また、患者さんが不便や不具合を感じている箇所や気が付いた事柄は、会議を通して病院側に伝えていきます。院内では場所の案内を請われることが多くあり、ピンクやブルーの服のボランティアは患者さんにとって気軽に声をかけていただきやすい存在になっているのだなと嬉しくなります。また、一緒に行動することで安心感を抱いてくださっているように思います。

今後は病院の施設の充実に伴い、夕方や休日の活動が検討されており、私達の必要性も増えていくようです。目的に合った活動はもちろんのこと、内容の充実を図り、自主的学習とともに研修会も積極的に取り入れていきたいと考えています。

地域と共にある病院とボランティアは相互関係に支えられています。多くの方がボランティア活動に参加してくださるよう願っています。



病棟での小児工作

病院の風景

お立ち台？



1番館外来2階に、少し突き出たところがあるのをご存知ですか。ここは、やんごとない方がおいでになったときの「お立ち台」というわけではありませぬし、ジュリエットがここに立って恋心を述べらるわけでもありません。2階の廊下の吹き抜け側は壁になっていて、下を見ることができません。2階にいる人が、背伸びしたり壁によじ登らないでも下が見えるように、この部分が設けられました。でも、なんだかお姫様が出てきそうで、ちょっと気になりますね。

整形外科部長 山崎医師

スマトラ沖地震・津波

災害救援活動に参加



昨年12月26日にインドネシア スマトラ島沖で発生した大地震に伴う津波は同地域に甚大な被害をもたらしました。日本赤十字社は災害発生後12月29日に初動班となる医療チームを現地に派遣し、当院整形外科山崎部長も2月から1ヶ月間、第4班として現地において救援活動に参加しました。今回はその活動の一部を山崎部長の手記を交えながら紹介します。

【活動地】

今回の地震・津波の被害はインド洋沿岸各国に広がっていましたが、最も震源地に近く被害が大きかったのが、スマトラ北部のアチエ州です。その州都バンダアチエでは日本の自衛隊を含む各国からの様々な救援活動が展開され、頻繁にマスコミに報道されておりました。しかし、日赤はバンダアチエではなく、同じくアチエ州のムラボーという救援活動の行き届いていない町を活動拠点としました。

救援活動においては、どの地域に救援ニーズがあるかを評価することが重要でこれは国際赤十字連盟と日本赤十字社のアセスメントチームの判断でした。

【救援活動の内容】

現地での救援活動は、

- ① 約二千人がテントで暮らす避難民キャンプでの基礎保健ERUクリニック*
 - ② ムラボー市外での巡回診療
 - ③ シムルー島医療支援等
- が主なものです。

※ERUとはEmergency Response Unitのことです。緊急対応ユニットと訳されています。緊急時に備えて必要な機材や資材（テント、寝袋、食料、発電機、診療器具、医薬品等）をコンテナに詰めて保管しておき、短時間で出動できるようにしたものです。

【現地での様子】

日赤のERU（緊急対応ユニット）は基礎保健ERUなので、破壊された現地診療所の代替機能を果たすのが目的です。発災後1ヶ月以上経過しており、外科系疾患は少なく、主たる疾患は呼吸器疾患で次に消化器疾患でした。

私達のグループはリーダー1名、管理要員4名、看護師8名（うち助産師2名）医師3名合計16名でした。チームリーダーは国連、赤十字国際連盟、現地保健省などが主催する会議に出席し日赤チームの方向性を決め、他のNGOとの連携を取る責任重大な仕事です。

管理要員は生活の基盤を保つのが仕事です。具体的には、現地スタッフの管理、車や飛行機のスケジュール調整と手配、本社、連盟、モバイルクリニック中の要員との連絡、公報、発電機管理、家の管理…と数え上げたらきりがありません。

看護師は実際の診療以外に、医療器具の滅菌、クリニックで使用する薬の袋詰め、患者統計の管

理など患者と接する以外に多くの業務があります。使用頻度の多い薬を予めまとめておくのは効率的医療の為には必須の作業です。

山崎部長は手記の中で、最高気温38度に達する環境の中で、マラリア多発地域であるがゆえに携帯式ベープを常に常備し蚊に注意を払いつつ、汗疹や痒み、そして津波や地震により交通網が寸断された地域での診療の苦勞を詳細に記しています。国境を越えて医療活動を行う山崎部長の今後の益々の活躍が期待されます。



巡回診療の様子

ニュース

NICU開設

7月からNICUが開設されました。NICUは、新生児集中治療室のことで、1500g以下で生まれた小さい赤ちゃんや器械で呼吸を管理しなければならぬ赤ちゃんの治療にあたる場所です。当院で出生した赤ちゃんだけではなく、近隣の産婦人科や病院で生まれた赤ちゃんも入院しています。7月からは新生児診療専門の小児科医が24時間病院に居て、診療にあたっています。(これとは別に、一般の小児救急患者さんの診療にあたる小児科医も24時間病院に居ります。)



NICUの様子

国内型緊急対応ユニット (dERU) が導入されました

大規模災害に有効な、小型で小回りがきき浄水器や発電機も備えた自己完結型診療所機能を持つ設備と、それを運ぶトラック、自動昇降機コンテナ、そして訓練された要員、円滑に運用するシステムをまとめて、dERUと称します。日本赤十字社では、平成16年度から5年計画で、全国に10台を配備する計画で、その一環として当院に配置されました。



dERU設置訓練 (当院駐車場にて)

質問にお答えします

検査結果控えをくれる医師とくれない医師がいる

医師には、医師のほうから積極的情報提供をさせていただくよう指導しております。医師からの申し出がない場合でも、ご希望なされる場合には遠慮なく医師にお申し付けください。

マイクを用いない呼び出しの音が聞こえにくい

マイク使用をやめてからまだ日が浅く、もうしばらく経過をみさせていただきます。場合によっては、特定の部署や時間を限ってマイクを使用することも検討してまいります。また、耳の遠い方につきましては、病院としても十分注意してまいりますが、遠慮なくお教えいただければ幸いです。新外来棟では電光表示等でご案内できるよう準備しておりますので、恐れ入りますがもう少しお待ちくださいようお願いいたします。

武蔵野赤十字病院 基本理念

「愛の病院」四つの愛

病む人への愛

同僚と職場への愛

地域住民と地域への愛

地球、自然、命への愛

武蔵野赤十字病院

〒180-0022 武蔵野市境南町1-26-1
0422-32-3111

<http://www.jrc.musashino.or.jp>

印刷 : ムサシプレス株式会社